

第1 特集

ケースで学ぶ 薬剤性疾患と服薬トラブル

見逃されがちな「薬の問題」を診る力を養おう

薬剤性疾患や服薬トラブルは、プライマリ・ケアの日常診療で最も頻繁に遭遇する問題の1つです。症状が多彩で、基礎疾患の増悪や新たな疾患の発症と区別が難しい場合も多く、時に診断の遅れや治療方針の混乱を招きます。さらに、服薬不全や自己調整、デバイスの使いにくさといった「患者の事情」も医療者が見落としがちな要因として存在し、治療効果を左右します。本特集は、こうした多面的な問題を「ケースで学ぶ」構成により、より実践的に捉えることを目的としています。

第1部では、総合診療、救急、感染症、精神科、老年医学、緩和ケアなど多様な診療現場から、薬剤に起因する症状を見抜くポイントや、実際にどのような経過をたどったのかを提示します。薬剤性の可能性を疑う視点、薬歴の整理、ポリファーマシーや薬剤相互作用への着目、デバイス使用の背景理解など、日々の診療に直結する知識と姿勢を共有します。

第2部では、医師が見落としやすい「患者側の事情」を取り上げます。服薬方法の誤り、自己中断、家族介入、経済的理由、在宅環境の影響など、医療者が気づきにくい障壁を多職種の視点から掘り下げ、医療者へのメッセージとしてまとめています。薬剤にまつわる問題は、患者の生活世界の理解と、チーム医療のなかでの情報共有が不可欠です。

本特集が、読者の皆さまの「薬が原因かもしれない」と気づく感度を高め、薬剤性疾患・服薬トラブルへの理解と実践的対応力を深める一助となれば幸いです。

編集幹事

愛知医科大学医学部
地域総合診療医学寄附講座

宮田靖志